



Japan Dance Therapy Association

日本ダンス・セラピー協会
第31回 学術研究大会



テーマ

芸術 × 医療 × DMT

2022年8月27日 [土]
28日 [日]

WEB
開催

ごあいさつ

こんにちは。ようこそ、第31回日本・ダンスセラピー協会学術研究大会へ。

初めてDMT (Dance Movement Therapy の略) の扉を叩く方も、学んでいる方も、専門家もが一同に会するのがこの年次大会です。

「ダンス/ムーヴメントセラピー」というのは、人類の根源的なリベラルアーツが、社会の中で必然的な形として、体現できるものではないかと私は考えています。芸術学、文学、医学、数学、科学、物理学…あらゆる学問、芸術やスポーツ、民芸や芸能など、人間が作り出したクリエイティブなすべてがリエゾンした世界。それをほんの数分で体現できてしまう。それが、DMTです。

芸術療法の中でも、クリエイションそのもの、コミュニケーションそのものを、「身体」を軸に展開するDMT。クリエイティビティのある他の表現芸術との親和性も興味深いものがあります。想像力が創造性を生み、表現し、人は人を知り、自分を知り、そしてケアができるのではないのでしょうか。

本年度テーマの最も重要な点は、おそらく「× (カケル)」です。それは、相乗効果 (シナジー) を意味しています。テーマからの「× (カケル)」、身近なところから見いだされる小さな情報と、学術的側面からの「× (カケル)」。誰かと誰かの「× (カケル)」。様々な方向性から、オンラインならではの新たな発見の場となることを願っています。

大会WEBサイトでは活発な議論、質問などをできるよう工夫をしています。初めての試みとなる、『DMT CAFÉ』では、初学の方の些細な疑問、ベテランの悩みなど、参加者皆でざっくばらんにシェアをしてください。有意義な時間となると信じています。

短い期間ではありますが、皆様の学びと研鑽の一助となりますように。お部屋の温度調節、飲み物、軽食などご用意の上、リラックスしてご参加ください。

第31回 JADTA 学術研究大会 大会長
平山 くみ

目次

■ 開催要項	p 4
■ プログラム	p 6
■ イベント・シンポジウム詳細		
大会特別企画 プレイベント	p 9
シンポジウム 1	p13
シンポジウム 2	p15
■ 抄録	p17

開催要項

日本ダンス・セラピー協会 第31回学術研究大会 開催要項

- 日 時：2022年8月27日（土）プレイベント
28日（日）学術研究大会
- 会 場：オンライン開催（Zoom）
- テーマ：芸術 × 医療 × DMT
- 参加費：27日 無料（要申込・8月24日18時〆切）
28日（申込・入金 8月19日〆切）

	28日早割（7月31日まで）	以降
会員・一般	¥7,000	¥8,000
学生	¥1,000	

- 懇親会：なし

■ 参加方法

大会の開催は、WEB会議システム Zoom にて実施します。大会期間中、プログラムへの参加は Web 大会専用 HP からアクセスできます。なお、Web 大会専用ホームページへのアクセスには、専用パスワードが必要となります。専用パスワードは、8月26日（金）に参加用 Zoom ID/パスワード URL を参加申し込みで使用されたメールアドレスに送信いたします。大会当日までアクセスできませんので、予めご了承ください。

■ Zoom の接続方法

本大会はWEB会議システム Zoom を用いて LIVE 形式で実施します。JADTA の HP にアクセスできるネット環境下でご参加ください。ポスター発表演題に関しては、期間中、内容が Web 大会専用 HP にアップされ、お好きな時間にご覧いただけます。今回は、全てのプログラムを縦列で順次発表としておりますので、プログラム毎の会議とはなりません。大会会場の URL は入り口がひとつとなりますのでご安心ください。

インターネット環境、PC、タブレット、スマートフォンなど、いずれのデバイスでも参加可能です。Zoom の無料アプリケーションをダウンロードしなくても参加は可能ですが、接続トラブルを防ぐため、事前に無料アプリケーションのダウンロードを行い、参加準備をお願い致します。

- ・ Zoom デスクトップ クライアント
- ・ Windows: バージョン 5.3.0 以降
- ・ macOS: バージョン 5.3.0 以降
- ・ Linux: バージョン 5.3.0 以降
- ・ Zoom モバイルアプリ
- ・ Android: バージョン 5.3.0 以降
- ・ iOS: バージョン 5.3.0 以降

アップデートについて

分科会（27日開催 DMT Café）はブレイクアウトルームを使用します。お手持ちの Zoom アプリケーションは最新にアップデートをお願いします。詳しくは <https://support.zoom.us/hc/ja>

Zoom 利用が未経験の方で、使用方法が分からない方は、8月19日18時までに事務局までご連絡ください。

■ Web 大会にともなうネットリテラシーについて

JADTA の学術研究大会では、個人情報保護法案の元、自由な写真撮影や録画、生配信、研修情報のダウンロードなどを禁止しています。ネット上で開催する場合、著作権、肖像権などの権利も発生します。著作権不明の動画、音楽のシェアにはご注意ください。

また期間限定で公開される研究情報にも著作権が発生します。データについての引用や、今後の研究に必要な場合は、期間中に発表演者にご相談をお願いします。

■ 大会当日の問い合わせ先

大会プログラム開催中の Zoom 接続に関する問い合わせ

Tel : 050-6870-4667

Email : taikai @ JADTA.org

プログラム

8月27日(土)

前日イベント 参加無料 (非会員 OK)

受付開始 14:45

15:00~16:40

大会特別企画 イベント

1. DANCE THERAPY CAFÉ 教えて! ダンスセラピーの現場

ROOM 1 : 医療・高齢者 (精神科/緩和ケア/ 認知症病棟等)

ROOM 2 : 教育 (幼児教育/学校教育/発達障害 等)

ROOM 3 : 障害・こども (知的障害/身体障害/発達障害 等)

ROOM 4 : 地域コミュニティー・インクルージョン/親子問題/LGBTQ 等

16:50~17:50

大会特別企画 シンポジウム 1

2. 芸術×DMT 民族のカラダ表現を読む

アジアのダンスアーティスト3名の視点

モデレーター: 平山くみ (ダンスセラピスト/振付・演出家)

岩下 徹 (舞踏家)

キム・ソンヨン (舞踊家 / 振付家 / アートディレクター)

コウ・ヨンセ (韓国伝統舞踊研究者)

~18:00

3. JADTA 紹介 終了

8月28日(日)

学術研究大会
受付開始 9:00

9:30~

1. 開会
大会会長あいさつ 平山くみ

9:40~10:30

2. ポスター発表 ①
座長：山田 美穂（お茶の水女子大学）
各 15 分 発表 1/発表 2（計 30 分） 質疑応答 20 分
- 1) ケステンバーグムーブメントプロフィール（KMP）における
リズムラインのデジタル入力装置の開発と課題
崎山ゆかり（武庫川女子大学短大学部幼児教育学科）
- 2) ケステンバーグムーブメントプロフィールにおける
アートとサイエンス
中 めぐみ（おや・こ ムーブメント atelier M）

10:40~11:40

3. 実技発表 ①
座長：安田 友紀（神戸女学院大学）
発表 45 分 質疑応答 15 分
- 「論語」の知恵をからだで学ぶ：
教室にダンス/ムーブメントを取り入れる試み
山部英之（矢掛町教育委員会）・山田美穂（お茶の水女子大学）

12:00~12:50

4. 総会 ランチョンミーティング
※会員の方は、昼食をご用意の上ご参加ください。会議中、評決等があります。

13:00~14:00

- シンポジウム 2
5. 医療×DMT ダンス/ムーブメントを医療から観る
JADTA 在籍 精神科医三名の視点。
モデレーター：崎山 ゆかり（武庫川女子大学）
シンポジスト：ほしの じん（美唄すずらんクリニック元院長）
岩田 悠希（こころとからだ つむぐクリニック院長）
長谷川 雅文（はせがわこどもクリニック）

14:05~15:05

6. 実技発表 ② 認定ダンスセラピスト 単位認定あり
座長：平山 くみ（合同会社ワッカラボ）
発表 45 分 質疑応答 15 分
- 創作活動における動きの探求
安田友紀（神戸女学院大学）

15:15～16:05	<p>7. ポスター（掲示）発表②</p> <p>座長：山田 美穂（お茶の水女子大学） 各 15 分 発表 1 / 発表 2（計 30 分） 質疑応答 20 分</p> <p>3) 学校を休みがち・引きこもりがちな生徒との ダンスを通じた関わり 長瀬節子（フリースペース花みず木）</p> <p>4) 子どもの発達を支える身体表現遊びの環境 —共生・共創を目指した舞台づくりの実践から— 大橋さつき（和光大学）</p>
16:15～17:15	<p>8. 実技発表 ③ 認定ダンスセラピスト 単位認定あり</p> <p>座長：安田 友紀（神戸女学院大学） 発表 45 分 質疑応答 15 分</p> <p>ダンスセラピーオンライン研修会の実践における課題と展望 平山 くみ（合同会社ワッカラボ／大阪体育大学・非）</p>
17:25～18:25	<p>9. 実技発表 ④</p> <p>座長：平山 くみ（ワッカラボ） 発表 45 分 質疑応答 15 分</p> <p>オンライン・ダンスセラピーの可能性 加藤千恵子（東洋大学）、青木滉一郎（東洋大学）</p>
～18:30	閉会

イベント・シンポジウム詳細

大会特別企画 プレイイベント

1. DANCE THERAPY CAFÉ 教えて！ダンスセラピーの現場

「ダンスセラピーって何？」と聴かれることが多くなってきました。現場では何をやっているの？ 普通のダンスとどう違うの？ などなど。その質問を投げかけられた時、ふと言葉を選び、考えます。

ダンスが義務教育の中に必修化され、ますますダンスは身近になり、日本では世界初のダンスリーグまで開幕しました。この日本で、ダンス×セラピーという現場は、皆さんの目の前にもたくさんあると思います。そんな皆さんの“現場”をシェアしてみませんか。「こんな時どうしよう？」「こんな事があった！」など、認定ダンスセラピストでもあるカフェマスターたちが、ざっくばらんにお伺いします。学会での発表とは違う、生の声でみなさんと情報をシェアしましょう。各ブースのカフェマスターがセクション毎にゆるくファシリテートします。出入り自由です。

《カフェスタッフ紹介》

ROOM 1 医療・高齢者（精神科／緩和ケア／認知症病棟等）

カフェマスター：平山 くみ（合同会社ワッカラボ/認定ダンスセラピスト）

舞台芸術を本格的に学ぶ学科を新設した近畿大学で演劇と舞踊を学ぶ。新設だっただけに、時の大御所が揃っていたため、ここぞとばかりに2つの研究室に所属。演劇と舞踊両方の卒業公演に出るというラッキーな大学時代を過ごした。芥川賞作家や、人間国宝、演劇界のアカデミー賞受賞者、映画界の重鎮、有名舞台芸術家など、目の前にいるホンモノの芸術家たちを前に、自分の限界を思い知る。背伸びしてゲイジツカ活動をしたものの、カラダを壊して断念。ある時、ゲイジツカの夢を捨てきれず、生きていくための居場所を探す。芸術療法という世界、そのブルーオーシャンな世界に30年。ソーシャルアーティストというにははばかれるが、本当はそう名乗りたい。

【臨床】医療法人杏和会 阪南病院（慢性期デイケア・認知症病棟・児童思春期病棟）

はせがわこどもクリニック（児童精神科）、㈱ベネッセヘルスケア高齢者福祉施設 他

【講師】大阪体育大学（ダンス）、龍谷大学（演劇療法）、関西学研医療福祉学院（DMT）

【舞台】大橋也寸演出『猫のゆりかご』、神澤和夫 演出／振付『欣求浄土』、The International Center in N.Y.にて発表したバロックギタリスト Ghareb, EL. Tally との即興コラボレーションで New York China Times 掲載。Kamil Warchulski（元 Iceland Dance Company Dancer・埼玉国際創作舞踊コンクールファイナリスト）との Duo 作品『Gray ZONE』でひらかたフェスティバル招待アーティスト、同作品で Kozlove Ballet Company 客演、ATSUKO ダンススタジオ振付作品提供、法然上人 800 年祭増上寺イベント演出／振付、龍谷大学ふれあい大学課程舞台公演 脚本・演出・振付など

ROOM 2 教育（幼児教育／学校教育／発達障害 等）

カフェマスター：高橋 秀樹（長崎女子短期大学/認定ダンスセラピスト）

日米認定ダンス/ムーブメント療法士

米国ニューヨーク州立クィーズ大学（以下 QC）卒業後、サラローレンス大学大学院ダンス/ムーブメント療法学修士課程を修了し、アメリカダンスセラピー協会からレジスターダンス/ムーブメント療法士資格を取得する。その後、同州リイジスト・ケア・センター、イザベラハウスの勤務経験を経て帰国する。帰国後、日本ダンス・セラピー協会からダンスセラピスト資格を取得する。

現在、長崎女子短期大学幼児教育学科（助教）、京都大学大学院医学系研究科人間健康科学専攻（研究協力員）に所属し、幼児期の発達と発達障害児・者に対するダンス/ムーブメント療法の効果研究を実施している。また保育園や発達支援施設などにて支援を必要とする児への療育活動をしている。

ダンス歴

1999年にダンスを始め、QC大学にて、フォーナオブダンス賞、グラジュエイトダンス賞を受賞、北アメリカ、ヨーロッパ、アジア等世界各地で行われたダンスバトルやコンテストで計15回以上の優勝経験がある。また、国内外の数々のダンスバトル・コンテストのジャッジ、ワークショップ、パフォーマンスを実施してきた。近年ではNHKエディケーション「オハヨッシャ」の監修を務めた。

.....

ROOM 3 障害・こども（知的障害／身体障害／発達障害 等）

カフェマスター：松原 豊（元筑波大学教授/認定ダンスセラピスト）

はるか昔、大学院の指導教員の奥様がモダンダンスの先生であったという縁で、ダンスを始める。その後、養護学校（現特別支援学校）の教員となるが、ダンスへの思いが強く、昼間は教員、終業後と休みの日はダンス三昧の日々を送る。

現代協会舞踊協会主催の新人舞踊公演、5月の祭典、個人主催のダンス公演等に作品を発表する。また、舞踊手として東京都助成現代舞踊公演、文化庁助成現代舞踊公演、国際交流基金主催海外公演等、多くの舞踊公演に出演する。平成5年に第7回埼玉国際創作舞踊コンクール第3位優秀賞を授賞する。

振付家、ダンサーとして活動するうちに、障害児教育にダンスを教材として取り入れることを思い立ち、オリジナルの車いすフォークダンスやクリエイティブダンスを考案中に町田章一先生から日本ダンス・セラピー協会へのお誘いがかかり、協会員となり、ダンスセラピストの資格を得る。

その後、特別支援教育コーディネーター、健康福祉センターの心理判定員として発達障害児支援や子育て支援の経験を通して、ダンスと発達支援に関する研究を行う。また、特別支援学校退職後は保育者養成の大学教員を経て、筑波大学体育系教員としてアダプテッド・ダンスの研究など

を行い退職する。今は孫の世話に忙しくしている。

ちいママ：松村 汝京（東京障害者職業能力開発校）

日本女子体育短期大学舞踊専攻卒業後、同大学体育学部体育学コース編入学、卒業後 東京聖徳退学体育学研修室助手、藤村女子中学・高等学校講師、三鷹市ハピネスセンター、白梅学園大学 GP 講師を経て現在、東京障害者職業能力開発校講師・東大和市障害者福祉センターダンス講師。

セラピストやカウンセラーの資格を活かし障害者支援・発達支援等、数多くの現場で「心と身体をつなぐりを深めていく」活動を行っている。

動きを通して様々なコミュニケーション能力を高めていく遊具（コミュニケーションループ Wacca®）を使用したプログラムの開発やワークショップを実施、支援やサポートする人の為のプログラムや人材育成（ダンス教育支援プロジェクト）保護者の為のペアレントアクティビティ、支援者やケアに関わる人たちのサポートスキルを学べる研修等、独自のプログラム開発を展開し、参加者が楽しんで参加できる環境づくりやプログラム内容を研究し実践している。

.....

ROOM 4 地域コミュニティー・インクルージョン／親子問題／LGBTQ 等

カフェマスター：安田 友紀（神戸女学院大学/認定ダンスセラピスト）

古今東西唯一無二の存在である、ひとりひとりの多様性を受容しながら、時間と空間を共に分かち合い、みんなでつくるインクルーシブダンス。日常的な動きから、遊びを主とした即興や創作にてコミュニケーションをはかり、ダンス活動を行っています。

ダンス活動歴

- Dance Assemble アマカマ・ドゥ（2005年～現在）知的障害児者やその姉妹で構成されたグループを対象に、「即興」「創作」を主とした活動。
- 児童精神科ダンス・ムーブメント・セラピー（2011年5月～2017年3月）小学1年生～中学3年生を対象に、精神科医や看護師、理学療法士等のスタッフとともに「ダンス」や「スポーツ」を主とした活動。
- みんなでつくる発表会（2014年～2017年）日常は個々で活動しているグループが年に1度集まり、「出会い・繋がり・広がる」ことをテーマにみんなでつくりあげていく合同発表会。2歳～70歳にわたる多様な方々が参加。
- インクルーシブダンス（2019年～現在）障害の有無や年齢や性別にとらわれず、「Let's Dance！（踊ろう！）」と気軽に集い、遊びや即興を主とした活動。

黒服：町田 奈緒士（名古屋大学 男女共同参画センター）

LGBTQ という言葉は、よくメディアで聞かれるようになりました。

私は、そのうちの「T」にあたるトランスジェンダーのことを研究しています。

特に、トランスジェンダーを生きるという体験に伴われる実感や身体感覚に関心を寄せています。

私自身もトランスジェンダー当事者で、他の当事者たちとのインタビュー調査をもとに研究を進めてきました。ちょうど今年 4 月に、『トランスジェンダーを生きる：語り合いから描く体験の「質感」』という本を上梓しました。

子どもの頃からゴリゴリの運動音痴ですが（多分、だからこそ）、身体とこころの繋がりに関心を持っています。その関係性についてもっと考えられるようになりたいと思い、平山くみ先生の DANCE THERAPY COLLEGE を受講しながら、ダンス・セラピーについて勉強中です。ダンス歴はほぼゼロに近いですが、数年前から YouTube のヨガの動画を観ながらヨガをすることにハマっています。

カフェではみなさまと色々な発見ができれば嬉しいです。よろしくお願ひします。

大会特別企画 シンポジウム 1

2. 芸術×DMT 民族のカラダ表現を読む アジアのダンスアーティスト3名の視点

わたしたちダンス／ムーヴメントセラピストに必須のスキル、クライアントの「表現を受取ること」これは、カラダを媒介にした「身体言語をどう読み取るのか」と、言い換えることもできるのではないのでしょうか。今回は、東アジアを拠点に活躍する芸術家3名をシンポジストにお迎えし、東アジアで生まれた身体性を通し「表現を読む」とは、アーティストの視点からどのような事かを伺います。

《登壇者紹介》

岩下 徹

国際的な舞踏集団<山海塾>ダンサー。

ソロ活動では<交感(コミュニケーション)としての即興ダンス>の可能性を追求。

1957年東京生まれ。

82~85年石井満隆ダンスワークショップで即興を学び、83年ソロ活動開始。

かつて精神的危機から自分のからだを再確認することで立ち直ったという経験を原点とするソロダンスは、等身大のからだひとつで立つことから始まり、場との交感から生まれる即興として踊られる。代表作に、「放下」、「みみをすます」、音楽家との即興セッション等。

1989年より滋賀県／湖南病院(精神科)で医療の専門スタッフと共にダンスセラピーの試みを継続実施中。

日本ダンスセラピー協会顧問。桜美林大学、滋賀県立総合保健専門学校非常勤講師。

キム・ソニョン / 金 宣始

DANDANs Art group 代表

曹甲女流韓国伝統舞踊保存会 監査

ソウル芸術大学公演芸術学部 講師

ソナ芸術学校 韓国舞踊 講師 (1997~2003)

ソナ芸術高等学校 韓国舞踊 講師 (2003-2009)

リウル舞踊団 副団長歴任 (1995~2009)

ソウル芸術大学公演芸術学部 韓国舞踊科 & 演技科 講師(2010~)

'19 - 5月31日 - 'Bottari IV:Le jardin de fleurs paradis dans ce monde' フランスナンテス韓国の春祝祭 参加 主幹 :PRINTEMPS COREEN DE NANTES

'19 - 6月8日 - '非丁非八' /国立民族博物館

'19 - 6.26-27- 'Bottari:Movement3' ARMUNIA Inequilibrio イタリアフェスティバル参加

'19 - 12.4 SCF ソウル国際案舞フェスティバル 'Bottari: Movement3 参加

'20 - 2.9-2-16 第3回 HOTPOT 韓国代表 参加 (JAPAN , YOKOHAMA)

'21 10 10 モノタンツ , ボッタリ : 心の軌跡 '21 10 28. フランス駐韓国文化院 フェスティバル映像上映 BOTTARI : Trajectory of the mind .

コウ・ヨンセ / 高 年世

曹甲女流韓国伝統舞踊保存会 監査

’ 92 - 近畿大学文芸学部芸術学科演劇芸能専攻在学中にジャック・ルコックの流れを汲む身体創造学を大橋也寸氏に学び、太田省吾氏 作／演出【小町風伝】で上記大学卒業。

’ 96 - 太田省吾氏の紹介により山田せつ子氏主宰ダンスカンパニー【BIWAKEI】にて本格的にダンスを学び始め、山田せつ子氏と交流が深い韓国舞踊家金梅子氏との出会いにより韓国舞踊への関心が深まる。

’ 04 - 韓国全北大学舞踊大学大学院 修士課程 修了。

’ 12 - ～韓国在住

’ 00 - ～’ 16 韓国古武術心身養成法 金在徹 師事

’ 16 - ～ 曹甲女流韓国伝統舞踊 鄭明姫 師事

’ 17 - ～ 大韓佛教曹溪宗流作法舞 魚山魚丈 韓東熙僧 師事

大会特別企画 シンポジウム 2

5. 医療×DMT ダンス/ムーブメントを医療から観る

JADTA 在籍 精神科医三名の視点.

ダンス/ムーブメントセラピーがアメリカの医療現場で活用されるようになり、早 75 年以上の歳月が流れました。日本においても、JADTA は設立 31 年目を迎えました。

人類の歴史から考えると、ダンスにはヘルス（保健）的側面と、そこに包括されたメディカル（医学）的な部分を担ってきました。

既に何万年という蓄積の中で培われた非言語コミュニケーションであるダンス/ムーブメントについて、どのように活用できるのか、効果、効能はどのように表出するのでしょうか。医師の立場からお話を伺います。

《登壇者紹介》

ほしの じん

北海道大学卒後、自治医科大学精神医学教室入局。

専門は精神病理で、統合失調症やうつ病の治療を行う。

大学病院や総合病院精神科、クリニック等に勤務。

近年は認知症と発達障害の治療を主に行い、一昨年退職。

自治医大当時、芸術療法に造詣が深かった宮本忠雄教授の元で、音楽療法とサイコドラマを行う。

趣味でインド舞踊を習っていた 1991 年頃に町田章一先生に誘われ JADTA 創立に参加。

以後ダンスセラピーに裏方として関わり続け、現在に至る。

岩田 悠希

平成 18 年 4 月 公立八女総合病院 初期研修

平成 20 年 4 月 医療法人 杏和会 阪南病院 精神科後期研修

平成 22 年 1 1 月 大阪府立急性期・総合医療センター 精神科後期研修

平成 23 年 4 月 医療法人 杏和会 阪南病院 常勤医（～平成 27 年 2 月）

平成 27 年 4 月 医療法人 コミュノテ風と虹 のぞえ総合心療病院 常勤医

平成 30 年 4 月 医療法人 健美会 にしこころの診療所

平成 30 年 1 1 月 医療法人 八女発心会 姫野病院 常勤医（～令和 2 年 10 月）

令和 1 年 6 月 公立八女総合病院企業団 みどりの杜病院 非常勤（～令和 4 年 3 月）

令和 2 年 11 月 医療法人 八女発心会 姫野病院 非常勤（～令和 4 年 8 月）

令和4年10月 こころとからだ つむぐクリニック 開業予定

JADTA 認定ダンスセラピスト平山久美 Dth.、安田友紀 Dth. と共に慢性期混合病棟、
認知症病棟、児童思春期病棟にて DMT を実施。

第15回日本ダンス・セラピー協会研修講座 精神医学総論 講師 担当

第20回奈良大会 精神身体医学論（各論）平山久美 Dth. と共に「認知症」

「統合失調症」ワークショップを担当。

平成24年度より理事に就任。（令和2年度に理事辞任。）

平成25年5月～10月 DMT の効果を生理学的アプローチ（心拍変動パラメータ、簡易 NIRS 等）
を用いて検証する研究を筑波大学人間総合科学研究科院生（平山久美 Dth.）と病院における調
整および実施。

.....

長谷川 雅文

平成20年3月 鳥取大学医学部医学科 卒業

平成20年4月 京都第二赤十字病院 研修医

平成22年4月 京都第二赤十字病院 修練医

平成24年4月 京都府立医科大学付属病院 小児科 修練医

平成24年10月 京都第二赤十字病院 小児科 修練医

平成25年4月 医療法人杏和会 阪南病院 精神科・児童精神科

平成25年4月 京都第二赤十字病院 小児科 非常勤

平成27年4月 東大阪子ども家庭センター 嘱託医

平成30年4月 堺市立北こどもリハビリテーションセンターもず診療所 嘱託医

令和3年6月 はせがわこどもクリニック 開院

資格

日本小児科学会専門医／精神保健指定医／日本児童青年精神医学会認定医

子どものこころ専門医／子どものこころ相談医／コンサータ・ビバンセ処方登録医

日本医師会認定健康スポーツ医／日本医師会認定産業医／臨床研修指導医

所属学会

日本小児科学会／日本児童青年精神医学会／日本小児心身症学会／日本小児科医会

日本精神神経学会／日本小児東洋医学会／日本スポーツ精神医学会

日本ダンス・セラピー協会

抄録

ポスター発表 1

P 1～2：内容はオンデマンドによる配信

P 1

ケステンバークムーブメントプロフィール (KMP)におけるリズムラインのデジタル入力装置の開発と課題

崎山ゆかり (武庫川女子大学短期大学部幼児教育学科)

ケステンバークムーブメントプロフィール (KMP) は、主に乳幼児を対象とした運動分析技法で、発達支援の領域などで活用されてきた。動きをリズムラインとして記譜し、その形状をもとに分類を行い、出現バランスなど多面的に分析する特徴がある。これまで手作業で全ての分析がなされてきたため、分析には多くの時間が必要であった。この分析技法の自動化により KMP の汎用性を高め、幅広く発達支援につなげることを目的に、これまで情報工学の専門家と検討を重ねてきた。

自動化の第一歩として、データのデジタル化のためにリズムラインの入力方法を検討し、従来のアナログ形式 (映像を見ながら手元の紙に手描きでリズムラインを描く) から、デジタル形式への移行のため入力装置の開発と検討を行い、スライダースイッチ式、指曲げセンサー式、ペンタブレット式等 3 つの形式を試行した。装置によっては、その精度に更なる検討が必要なものもあるが、いずれも映像と同期したデジタル入力が可能となった。

本発表では、スライダースイッチ式 (開発については 2018ADTA で発表済み) と手描きのリズムラインの比較 (2019 科研報告書に記載)、指曲げセンサー式入力装置の課題、これらの取り組みを踏まえたペンタブレット式入力装置の導入などの経緯をまとめ、自動化に向けた課題を明らかにする。

なお、本研究は、「保育現場における発達支援のための運動分析技法の自動化に関する研究 (JSPS18K02473)、同、継続研究 (JSPS 21K02426)」の成果の一部であり、分担研究者である三重大学大学院工学研究科の高瀬治彦教授、川中普晴准教授、研究協力者の同大学院地域イノベーション学研究科博士後期課程の平林義彦氏、三重大学客員教授の井上敦司氏の協力の元で研究を進めている。

P 2

ケステンバークムーブメントプロフィールにおけるアートとサイエンス
中 めぐみ (おや・こ ムーブメント atelier M)

ケステンバークムーブメントプロフィール (KMP) の記譜は、観察者が被観察者に対して kinesthetic attunement を行い、「感じた」筋緊張の変化をテンションフローラインとして描く。なぜ kinetic ではなく kin- + esthetic (aesthetic) なのだろうか。aesthetics は、広義の「美」として「現象の感覚的側面」を表す。

アートとサイエンスの問題を考えると、比較対象としてのロールシャッハ・テストは、一定の知識と臨床経験があれば実施および解釈ができる客観的基準を作ることにより、サイエンスとして発展してきた。しかし、反応段階での行動観察と記録、正確なコード化のための質問段階での質問の吟味等は、テスターの臨床感覚や直観というアートの立場によるところが大きい。構造一覧表が人格の主要な布置を示すサイエンス的側面である一方、物語的な口述表現の解釈と分析はアートの側面といえる。

KMP は、筋緊張の変化だけでなく「空間・力性・時間」と「水平・垂直・矢状」の観点から動きの極性を判断する。観察場面のどこを選択し分析するかは観察者の臨床感覚に委ねられている。被観察者と他者や環境との関係性を考慮し、いくつかの場面を組み合わせ分析することが望ましいとされる。kinesthetic attunement はただ筋電図を描く計測機器になるのではなく、生の人間としての美的感性を通して行われるが、同時に観察者自身の志向性や偏りに自覚的であることが求められる。極性と比率に基づいて得られた動きの各要素は、統計学的基準を参照することで意味を与えられる。

このようにアートとサイエンスが複雑に混ざり合う KMP の更なる発展のためには、データ入力や処理に機器を活用する取り組みと並行して、人にしかできない「感覚」のトレーニングをいかにして行うかが課題となっている。

ポスター発表 2

P 1

学校を休みがち・ひきこもりがちな生徒とのダンスを通じた関わり
—「フリースペース花みず木」の活動から—
長瀬節子 (フリースペース花みず木)

不登校を経験した生徒の多くは自信を失い、活動意欲も低下していることが多い。しかし、本人が好きで得意な活動には、個別対応で比較的参加しやすいことを、15年にわたる精神科に入院・通院しながら学ぶ病弱特別支援学校の教員経験から実感している。

このような背景から、私は平成24年に学校を休みがち・家に引きこもりがちな生徒（小学校1年～）にさまざまな活動ができる場所として「フリースペース花みず木」を開設した。絵画や陶芸など専門分野を深めているスタッフの協力を得て、私は主に面談・料理・運動・ゲーム等で生徒と関わっている。

ダンスの取り組みとしては、好きなアーティストの曲や動画で会話が弾み、そこからダンスに誘導できたことが多い。青年期の生徒は型のあるダンスを好んだが、児童期では思うままに自分を表現した生徒もいた。

今回の発表では、児童期・青年期の二人の生徒のダンス活動に焦点を当ててダンスの活動がもたらした生徒の変化について検討を進めたい。又、当事者・保護者の許可を得たうえで、活動の様子を動画でも紹介する予定である。

加えて、ダンス以外のここでの活動も報告したい。コロナ禍での対応は苦慮したが、活動を望む生徒の声に応じて山梨に緊急事態宣言が発令された時以外は、検温・消毒・換気等を徹底して活動を継続してきた。工夫の一環として、生徒が集まる会では飲食なしでの物作りや分散しての遊びに限定し、客を招くイベントでは作品の展示会のみをドアや窓が開放できる時期に行った。又、保護者には、休み・予約の振替・返金に応じる連絡を取ったが、コロナ禍を理由の欠席はなかった。今後も課題を整理して活動を継続していきたい。

P 2

子どもの発達を支える身体表現遊びの環境

—共生・共創を目指した舞台づくりの実践から—

大橋さつき（和光大学）

WHOの国際生活機能分類や知覚心理学者ギブソンにより提唱されたアフォーダンス理論の普及によって、子どもと環境は相互に影響するものであるという考え方が重視されるようになり、特に、障がい児支援においては、環境を十分に整え活用することが求められている。一方、発表者の実践基盤である「ムーブメント教育・療法」は、様々な遊具や音楽や集団活動などを取り込み、子どもが自ら「動きたい」「かかわりたい」と思う環境をアレンジし、環境との対話の中で自然な動きの拡大を図る発達支援法である。

本研究では、発表者が携わった実践の中から、インクルーシブな舞台づくりに焦点を当て、子どもの発達を支える身体表現遊びの環境について考察する。対象となる実践は大学の地域連携事業で、地域から障がい児を含んだ様々な違いのある31名が参加した。特徴としては、舞台上演を最終的な目標としながらも、その実現のための手法として、極力、「練習」や「稽古」を避け、「遊んでつくる、舞台でも遊ぶ」をモットーとしたところにある。例えば、ダンスの振付けや構成を覚えるために繰り返し修練するようなことはなく、あくまで「遊び」活動として積み上げてきた営みを土台に、即興的な表現を重視して自然な形で各々が舞台上で表現できるように工夫を重ねた。リーダーらは、上演作品のイメージも予め固めすぎずに臨み、参加者の遊ぶ様子や活動によって生まれたモノや動き、関係性を軸に作品を構想していった。

本研究では、リーダー及び学生スタッフが残した記録とインタビューをもとに、環境設定の特徴について、どのような気づきを得ていたのか調査した。その結果、①ムーブメント遊具の活用が効果的であったこと、②子どもの自発性が尊重され、多様なかわり方が重視されていたこと、③「人こそ環境」という意識が高まったこと、④一貫して「遊び」環境であったこと、の4つの視点を見出した。

実技発表

WS 1～4 : Zoom による Live 発表

WS 1

「論語」の知恵をからだで学ぶ：教室にダンス／ムーブメントを取り入れる試み
山部英之（矢掛町教育委員会）・山田美穂（お茶の水女子大学）

「論語」と「ダンス／ムーブメントセラピー」にはたしてどんな接点があるのか、ピンとくる人は少ないかもしれない。しかし、論語に込められた孔子の教えには、古代の文化に通底する、身体に根差した知恵が凝縮されている。そのエッセンスを身体で感じ取り、身体で表現することは、本来の論語の学びを体験することであると同時に、ダンス／ムーブメントセラピーの守備範囲の広さを確認し、教育領域における発展可能性を模索することにもつながると考える。

本発表では、小学校における論語教育にダンス／ムーブメントを取り入れた実践について報告した後、論語のフレーズの解説と唱和、それらによって喚起される身体のムーブメントを参加者の皆さんと共に試みたい。よく知られたフレーズやその中に含まれる漢字に触れる

ことで身体に生じる感覚を「ポーズ」で表現することは、論語教育実践に参加した小学生が楽しんだ課題である。今回の発表では、それを流れのある「ダンス」へと発展させられるような、安全で自由な場を作ることができればと考えている。

本発表を通して、言葉を聞いたり唱えたりすることからイメージが湧き、身体が自然に動き、イメージや動きが他者と共有されるためには何が必要か、そこにはアクティブな自己がどのように存在するのか、そのような体験が子どもたちにとってどんな意味をもつかということを検討したい。さらに、論語教育にとどまらず、また体育や音楽といった特定の教科に限らず、学校現場におけるダンス／ムーブメントセラピーの可能性をめぐる議論が深まることを願っている。

WS 2 <認定ダンスセラピスト 単位認定あり>

創作活動における動きの探求

安田友紀（神戸女学院大学）

2005年より活動を継続している Dance Assemble アマカマ・ドウ（以下、アマカマ）における創作活動に関する実技発表を行う。アマカマは、知的障害（発達障害、ダウン症候群等）があるメンバー6名で構成されており、月に2～3回の活動を行っている。即興を主としたダンス活動を継続しており、1年に1つの作品を創作している。本発表は、2021年度に創作した作品を基に、実技発表を行う。実技発表の構成は、Ⅰ. アマカマによる作品映像（約7分）、Ⅱ. ウォーミングアップ（約8分）、Ⅲ. 動きの確認（約12分）、Ⅳ. 音楽を聴きながら（約10分）、Ⅴ. クールダウン（約8分）とする。

まず、Ⅰ. アマカマによる作品映像において、メンバーがどのような表現をしているか鑑賞して頂き、Ⅱ. ウォーミングアップとして手拍子や各身体部位のストレッチを行う。Ⅲ. 動きの確認においては、2021年度に創作した作品の動きを確認する。主な動きとしては、「①上を向く」「②手を上げる」「③歩く」「④しゃがんで立つ」「⑤止まる」「⑥両手で顔を隠し、両手を広げる」「⑦指先を握りしめ胸に近づける」「⑧両手を広げて回る」、以上の8つである。これらの動きを4つのKey Word「身体の方向」「身体の高さ」「動きの速さ」「動きの強弱」をあげて探求し、Ⅳ. 音楽を聴きながら①～⑧の動きを行う。その際は、「自身のタイミングで動くこと」、「①～⑧のいずれの動きを行ってもよい」、「①～⑧以外の動きを行ってもよい」という3点を確認の上、行う。その後、まとめとしてⅤ. クールダウンを行う。

即興を主とするアマカマの活動において、どのようにメンバーから動きを引き出していくのか、日々試行錯誤が続いている。その試行錯誤の1つとして実技発表を行い、参加者の皆様から頂いたご意見をアマカマに反映したい。

WS 3<認定ダンスセラピスト 単位認定あり>

ダンスセラピーオンライン研修会の実践における課題と展望

平山くみ（合同会社ワッカラボ／大阪体育大学・非）

新型コロナウイルスの感染拡大で余儀なくされた、オンラインで実施する実技の授業や研修会について、この2年の実践を発表する。当協会で開催する資格認定講座も約2年の間中止を余儀なくされた。反面、自宅待機となった方々から、「ダンス・セラピーを学びたい」との問い合わせも増え、せめて座学講義だけでも実施するべきだと判断し、合同会社ワッカラボでは、資格認定講座の実施に踏み切った。座学に関しては、むしろオンラインの利点も多く、対面講義以上に発見も多く見受けられた。資料の開示、動画の共有、チャットの活用など、オンライン上でのコミュニケーションは、グループワークの実施も問題無く、むしろ対面で実施するよりも参加者がアクティブに発言をしているのではないかという主観も得られた。講義している側も、対面時より受講者の顔と名前が早く一致していくという実感もあった。

しかし、実技に関してはどこまで体験を実感できるのか思考錯誤することとなった。本来、受講生が体感するであろう「Atmosphere（場の空気感）」を、オンライン受講する自室で実感することはできるのか、ダンス・セラピーの「実技」としての学びは受講生に届くのか。そのような不安を抱きつつも実施した研修では、講師、参加者両者のセラピストとしての観察眼を磨く糸口があったように感じる。オンラインだからこそできたワークのいくつかを実践で体験いただき、今後のオンラインで実施される研修の課題と展望を検討したい。

WS 4

オンライン・ダンスセラピーの可能性

加藤千恵子（東洋大学）・青木滉一郎（東洋大学）

昨今のコロナ禍において、人と人が触れ合う機会は大きく減少してまいりました。人間関係の希薄化等が問題視される一方で、オンライン形式でのコミュニケーションが発展を遂げたことで、オンラインセラピーのような新しい取り組みも散見されるようになってきています。発表者の加藤は、ヨガやダンス、伝統舞踊等の身体活動を活かしたセラピーを専門とし、心理的支援に従事してまいりました。心身への意識を高め、コントロールを図るヨガをダンスや各国の舞踊と組み合わせることで、セラピーへの活用の幅も広がると考えております。最近では、対面でのセラピーが困難な状況を想定し、Web 会議システムを利用したオンライン・ダンスセラピーを実施しています。特に、外出の困難な高齢者の方々にとっては、オンラインで参加が可能なセラピーが、心身の健康維持・増進の一助となる可能性があります。また、ディスプレイを介して、参加者の方々と映像や音楽を容易に共有できるなど、オンラインならではの強みもあるでしょう。しかしながら、非対面・非接触で行われるダンスセラピーには、対面でのセラピーとは異なる難しさが存在するのも事実です。これまで、高齢者施設を対象に行ってきたオンライン・ダンスセラピーでは、画面越しに伝わってくる参加者の方々のご様子を頼りに、プログラムの調整が図られました。非対面のセラピーの難しさを感じると同時に、コロナ禍での経験を積み重ね、コロナ以後のセラピーに活用できる知見の一端を得ることができたのではないかと感じております。本年度の学術研究大会もオンラインでの開催となりますが、このような形での実技発表を通じて、取り組みの成果を皆様方にご報告することができればと存じます。

日本ダンス・セラピー協会 第31回学術研究大会 実行委員会

大会会長 平山 くみ (合同会社ワッカラボ／大阪体育大学・非)

実行委員 北島 順子 (大手前短期大学歯科衛生学科)

崎山 ゆかり (武庫川女子大学短期大学部幼児教育学科)

中 めぐみ (おや・こムーブメント atelier M)

平山 なを (合同会社ワッカラボ)

星野 仁 (JADTA 広報委員会)

向出 章子 (武庫川女子大学教育学部・非)

安田 友紀 (神戸女学院大学)

山田 美穂 (お茶の水女子大学)

(五十音順)



日本ダンス・セラピー協会 第31回学術研究大会

プログラム・抄録集

2022年8月27日 発行

大会事務局 : taikai@jadta.org